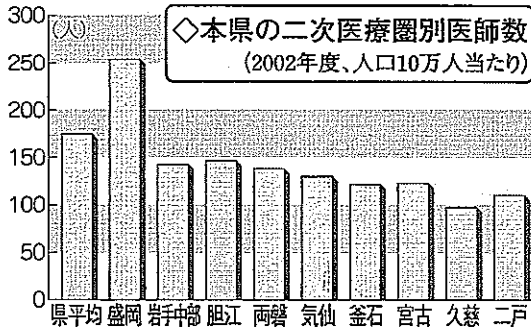


# 医師育成 高校生にPR

医師という職業に理解を深めてもらおうと、県医療関係者は二月六日、盛岡市の県立中央病院で、高校生や保護者を対象にした医学部進学セミナーを開く。ベテラン・若手医師が講師となり、やりがいや勉強方法などの質疑応答、救急現場などの見学を予定している。医師不足が深刻化する中、県は早い時期に動機付けを行い、担い手育成に力をつける考えだ。



## 県、来月セミナー開催 担い手の県定着へ模索

セミナーでは、同病院の樋口絃院長が「医者って何だろう?」と題し講演。若手医師三人によるフリートークも行われ、医学部の入学試験、学生生活、卒業後の進路など、具体的なテーマについて質問に答える形で進める。医師の案内で、同病院の手術室や医局、救急現場など医療現場の見学も予定している。

本県は全国と同様、二〇〇四年四月から始まった新臨床研修制度の影響で、大学病院が派遣を中止するなど医師の絶対数が不足し、小児・産婦人科などが常勤医不在の危機に追い込まれている。

そのため県は▽二次保健医療圏ごとに臨床研修

### 医療現場の見学も

索している。同課の石田啓一医療担当課長は「高校生で医師や理科系に進路を希望している人はこのセミナーに参加してもらい、将来はぜひ若手で活躍してほしい」と願う。

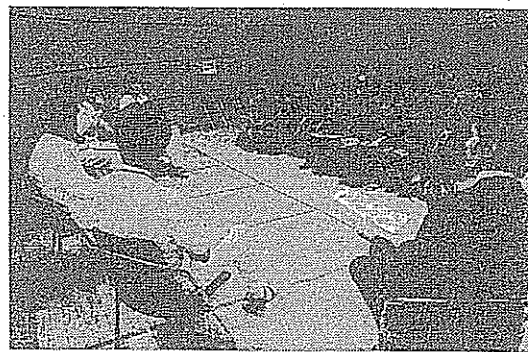
セミナーは参加無料。県立中央病院四階大ホールで、午後一時から同四時半まで。問い合わせは同課(019-620-5407)へ。

しかし依然として医師不足は深刻で、地域差も大きいことから、県医師会や市町村関係者らで県地域医療対策協議会を昨年設置。今回のセミナーのほか、医学部生対象のサマーセミナーなど、本県に医師が定着するためのネットワーカー構築を模

体制を整備▽指導医の資質向上入講習会開催▽医学部への奨学金貸付し付けなど、さまざまな対策を打ち出している。

## 高校生に医師の心得

盛岡で医学部進学セミナー



県主催の医学部進学セミナーは六日、盛岡市の県立中央病院で開かれ、医師を目指す高校生らがベテラン、若手医師の言葉に熱心に耳を傾けた。

高校生、保護者ら約百五十人参加。左

藤枝信県保健福祉部長は「理数系が得意だから医学部を目指す人もいるが、現場では幅広い知識が求められる」と指摘し、「目的意識を持つことの必要性を説いた。」

「医者ってなんだ?」と題し講演した樋口

が最低限持っていないければならないものは、人をいたわる気持ちだ」と力を込めた。

フリートークでは若手医師三人が会場の質問に

答えた。会場からは「高校生の時にやっておけば良かった」と思っていたのは「女性らしさを生かせる仕事は」など具体的な質問が次々と寄せられ、保護者からは医学部卒業までの学費を心配する声も聞かれた。

樋口絃院長は「一人を助けることで、家族や同僚など約五百人が救われることになる」と医師という職業の尊厳を強調。その上で「医師を目指す人

## ○ 本県の現状について

(岩手県保健福祉部：第1回岩手県地域医療対策協議会)

### 1 医師数の状況

#### (1) 医師数全体

- ・ 医師数は増加しているものの、全国との格差が拡大している (P 3)
- ・ 平成14年度現在、都道府県別順位では下位8位であるが、長野、静岡、岐阜などの中部・東海地域と同程度の水準。(P 4)
- ・ 面積あたりの医師密度は低く、東京の約1.00分の1=1医療機関の医療圏が広い  
→他地域からの医師の応援が得られにくく、医師の負担が大きい (P 5)

#### (2) 業務の種別による比較

- ・ 業務の種別比率は全国とほぼ等しい=勤務医、開業医ともに不足している (P 6)

#### (3) 年齢構成による比較

- ・ 他県と比較し、70歳以上の医師の割合が高く、39歳以下の割合が低い (P 7)

#### (4) 女性医師の状況

- ・ 女性医師の割合は増加しているが、全国平均と比較すると伸び率は低い (P 8)

### 2 病床数の状況

- ・ 人口あたりの病床数は、全国平均よりやや多い程度。(P 9)
- ・ 病床あたりの医師数では、全国との差が拡大。(P 10)
- ・ 病床規模別では、100床から400床の中規模病院が多い (P 11)  
→診療科あたりの従事する医師が少ないため、医師の負担感が大きい

### 3 患者の動向

- ・ 受療率は入院でやや高く、外来はほぼ全国水準 (P 12)
- ・ 県全体の平均在院日数は全国平均と同程度だが医療圏毎にばらつきがある (P 13)
- ・ 月別患者数では、小規模病院における冬期間の入院患者数の増が大きい (P 14)

### 4 医師の地域偏在

- ・ 医師は盛岡に集中しており、特に県北・沿岸部で医師が少ない (P 15)
- ・ 診療科別分布では盛岡を除いた医療圏で特定の診療科(小児科等)のばらつきがみられる (P 16)
- ・ 両磐、久慈医療圏で小児科医師が、釜石で産婦人科医師が少ない (P 17~18)

## 5 大学医学部の状況

### (1) 入学定員数

- ・ 人口あたりの入学定員は、全国平均をやや下回る程度だが、病床あたりや面積あたりの値は低い（P 19）

### (2) 進学状況

- ・ 東北地域の人口10万対医学部入学定員数は、全国平均よりやや少ない程度だが、東北地域出身者割合は、全国平均を大きく下回る。（P 20）
- ・ 東京近郊の人口に対する国・公立大学医学部定員が著しく少ない（P 21）  
→私立大学を避ける者が東北等他地域に多数流出（東北は東京近郊出身者の草刈場）
- ・ 18歳人口1万人あたりの進学者数は、全国最低水準の東北平均を下回り、中国・四国地域の半数以下（P 22）  
→原因としては様々な理由が考えられるが、大きくは ①学力の差 ②経済的問題が挙げられる

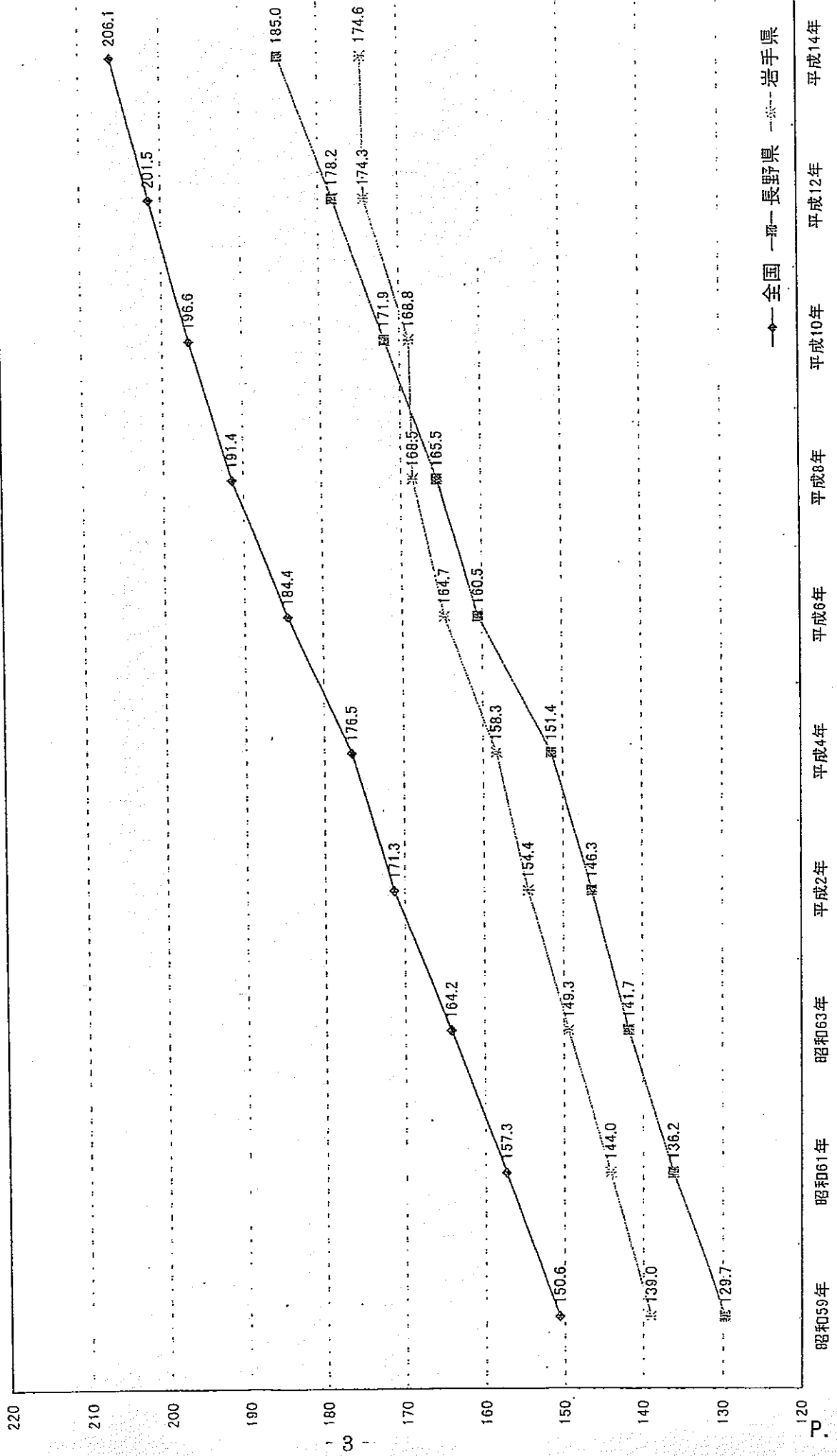
### (3) 卒業後の県内への定着

- ・ 県内への定着率は40%程度であり、東北各県も同様の傾向（P 23）  
→医師の少ない東北から医師の多い東京近郊に多数流出していると考えられる
- ・ 岩手医科大学の本県出身者比率は25%前後であり東北各県もほぼ同様の傾向（P 23）  
→卒業後の地元への定着率が低い要因の一つと考えられる

## 6 まとめ

- ・ 本県の医師数は全国に比べ少ないレベルにあり、その差は年々拡大している。また、東北各県の状況も同様である。
- ・ 本県の病床数の多さ、入院受療率の高さ、面積の広さ、病院の1診療科あたりの医師数の少なさ等の要因が、医師不足の印象をさらに強くしている。
- ・ 本県の医師不足は、主に盛岡医療圏以外の医療圏の問題であり、診療科の偏りもある
- ・ 医師不足の背景には、本県からの医学部進学者数の少なさがあり、医師養成対策が必要
- ・ また、大学卒業後の定着率が低く、医師定着のための対策が必要

○ 人口10万対医師数の年次推移（医師、歯科医師、薬剤師調査）  
 → 岩手県の医師数は増加しているが、近年増加が鈍化しており、全国との格差が拡大している



○ 人口10万対医師数 (H14 医師、歯科医師、薬剤師調査)  
 → 全国平均206.1人と比べて医師数は少なく、都道府県順位では下位8位。  
 (ただし、長野(185.0)、静岡(170.8)、岐阜(168.1)などの中部・東海地域と同程度)

